

播磨科学公園都市のあり方検討 まちづくりチーム 第2回 記録

■開催概要

- ・ 日 時：2026年6月22日（火） 18:00-19:30
- ・ 場 所：光都プラザ コミュニティスペース cotohana（コトハナ）
- ・ 参加者：コーディネーター/有識者（2人、内1人web）
地域住民（11人、欠席1）
行政職員（10人）
傍聴者（5人）
- ・ プログラム内容：
 1. 開会
 2. ワークショップ（意見交換）
 3. 意見の共有
 4. 閉会

■まちづくりチームの位置づけについて（コーディネーターより）

- ・ 行政や専門家が都市の将来を考えてそれを市民に示すという方法では、つくっている人と使う人が別となってしまう、短期的には良くて長期的には衰退する場合がある。住む人としての市民は、誰かが提供してくれた場所を使い、愛着がなかったりすると、すぐに離れていってしまう。初めは施設が大きくできて多くの人が住んでも、すぐに小さく衰退してしまう。
- ・ 良いまちであり続けている場所の条件の一つは、そこに住んでいる人たちがそのまちのことを好きで、自分たちでまちのことを考え、体を動かしているかどうかである。今住んでいる人、これから住むであろう人たちがまちに関わり続けられる機会やきっかけをつくるのが、このまちが継続的によいまちであり続けるために絶対に必要な条件である。
- ・ まちづくりチームの位置づけは、この将来像を描いていく今の段階でも、市民の声をきちんと皆で共有し、将来像を描いていく際に反映させていくためのものである。
- ・ この場で話し合ったことは、一つ一つ大事な意見である。それがすべてまちづくりのビジョンの中に反映されるかどうかは、都市フレームチームやイノベーションチームの検討など、様々な条件の中でできること、できないことが整理されていくと思う。ただ色々な意見や価値観を共有する対話の場としてもまちづくりチームは重要である。
- ・ 具体的なことだけを話す場でもないし、ビジョンのことだけを話す場でもない。現在と過去、あるいは現在と未来を行ったり来たりしながら、皆で将来の姿を描いていく場であると考えてもらおうと、この場で議論されていることの意味がずっと腹に落ちるのではないかなと思う。
- ・ 皆で意見を出し合って勉強し、勉強した結果、皆がアップデートした知識をもとに、できることを整理し、それを実行につなげていく。そういうステップで、このまちづくりチームを動かしていきたい。

■ワークショップ（意見交換）の記録

- ・ 前回（第 1 回）から引き続いて、3 班（当日参加の住民含む）に分かれて意見交換を行い、論点を基に具体的な検討項目を整理した。冒頭で全体に対してワークショップ形式で進めることについて合意を取った後、各班で自己紹介を行い、各自が付箋 1 ～ 2 枚に意見を記入し、貼り出しながら共有した。その後、班員同士で全体を俯瞰して不足している視点を確認し合い、追加意見共有した。最後に話し合った内容を全体に向けて発表し合った。

【1班】

主な論点	検討項目（素案）	付箋に記載の意見
●日常生活（医療・福祉・買い物等）の基盤の確保	地域医療	・経営の成り立つ病院を作れるか。高齢者が多い社会に対応 ・病院医療 “オンライン診療” スポット、看護師
	買い物	—
●くらしの安全（防災・防犯等）の確保	防災	・災害対応型病院で西播磨地域の受け皿で ・はりま科学公園 防災拠点都市 ・安心・安全
	防犯	—
●公共交通機関等の交通利便性、持続可能なモビリティの確保	地域交通	—
●住環境の質の確保（豊かな自然環境との調和、多様な世代への配慮等）	豊かな自然環境との調和	—
	多様な世代への配慮	—
●働く場・環境の確保	働く場	・働く場の増
	働く環境	—
●多様な人がつながるコミュニティの形成	環境整備	・地域活動の充実
●質の高い教育環境の確保	教育環境の確保	—
●学生・研究者にとって魅力あるまちづくり	魅力あるまちづくり	・大学生を大切にして、ここに戻ってくる気持ちにする!!
●研究機関×大学×企業×地域による新たな学び・交流の創出	学び・交流の創出	—
●住民・学生・研究者等多様な人が交流する機会・場（空間）の創出	機会、場（空間）の創出	・チャレンジできるまち SP8、県大を活用 失敗しても OK。地域住民の方も協力
●都市ブランドや魅力の創出・発信、シビックプライドの醸成	都市ブランドや魅力の創出・発信	・都市の情報 発信の仕方 ・若い人への知名度 UP 作戦 Instagram、X(Twitter)など 良い所あるのに伝わってない ・科学マニアだけでなく、アニメ、マニア、オタクや写真マニア・オタクへのアプローチ（アニメの聖地） ・飲食店や絶景スポットをまとめた冊子の作成

		・テクノ関係（インスタ等で情報発信）（・住民の方 ・立地企業の方 ・行政関係者） ・播磨“科学”“公園”都市（・防災拠点 ・医療拠点 ・スポーツ拠点 ・教育拠点）コアコンセプト 周辺ニーズ
	シビックプライドの醸成	・文化を拓く 多様な人々をつなぐ！ 人と人
●既存施設、未利用地、遊休施設等の有効活用	資産の有効活用	・サッカー場の充実 核となる何かを
●若者等の定住・雇用環境の整備	環境整備	・今を活かした住む場所
●自然、都市の魅力を活かしたまちの魅力づくり、イベントの展開	魅力づくり、イベント展開	・自然の中でリフレッシュ施設 ◎水が豊富である ◎水着で自然の中でのサウナ施設／学生 ・周辺との連携 農園作業 貸し農園 ・栗ノ木谷公園 住民協力でもっと美しくする。“マイガーデン化” ・サッカー場の充実 核となる何かを
まちの方向性		・朝のラッシュがおきるのになぜここに住みたくないの？ ・持続可能な街づくり→維持費の問題をどうクリアするか ・3市町の融合での活性化 ?宍粟市にも入ってもらう。

<特記事項・コメント>

- ・議論の進め方について、播磨科学公園都市のあり方検討に関わらず、これまでも似た議論を行ってきた。そうした内容を踏まえた上で、新たな視点も含めて進めていきたいとの意見が出た。
- ・前回の議論を踏まえ“科学”だけでない核が重要との認識の下、医療や災害対応等の安心・安全、スポーツ、教育、などのテーマや、サッカー場などの既にあるものの活用などをとの意見が挙げられた。またハードの維持費用の問題と絡めて、テクノを開発した際の志を踏まえつつ、次のステージに向けて新しい血を入れながら進んでいく必要があるのではないかと議論もあった。
- ・情報発信については若い人に対する発信の方法に関する工夫や地域資源の掘り起こしなどが必要ではないかと意見が出た。
- ・自然や公園といった観点では、周辺と連携した貸農園や住民自身が関わって公園を美しくすることなど、住民が公園利用を通して整備や管理に関与する方向でのアイデアが出た。
- ・移住定住に関することとして、光都で働く人が住まない理由を調査してはどうか、大学生を大切にすると卒業後も留まる・帰ってくる可能性があるのではないかなどの発言があった。

<当日の意見>

検討項目	検討内容	検討結果
1. 作業部会の設置	作業部会の設置の必要性を議論し、設置の目的、役割、メンバーの選定方法などを決定する。	設置の必要性は高いと認められ、設置の目的、役割、メンバーの選定方法などが決定された。
2. 作業部会のメンバー	作業部会のメンバーの選定方法、メンバーの役割、メンバーの選定基準などを決定する。	メンバーの選定方法は、関係者からの推薦、公募、指名などによる。メンバーの役割は、調査、分析、報告などである。メンバーの選定基準は、専門性、経験、コミュニケーション能力などである。
3. 作業部会の活動	作業部会の活動の目的、活動の計画、活動の進捗管理などを決定する。	活動の目的は、課題の解決、情報の収集、関係者の連携などである。活動の計画は、活動の目的、活動の計画、活動の進捗管理などである。活動の進捗管理は、定期的な報告、進捗の把握などである。
4. 作業部会の報告	作業部会の報告の目的、報告の計画、報告の進捗管理などを決定する。	報告の目的は、課題の解決、情報の収集、関係者の連携などである。報告の計画は、報告の目的、報告の計画、報告の進捗管理などである。報告の進捗管理は、定期的な報告、進捗の把握などである。
5. 作業部会の評価	作業部会の評価の目的、評価の計画、評価の進捗管理などを決定する。	評価の目的は、課題の解決、情報の収集、関係者の連携などである。評価の計画は、評価の目的、評価の計画、評価の進捗管理などである。評価の進捗管理は、定期的な評価、進捗の把握などである。

検討項目	検討内容	検討結果
1. 作業部会の設置	作業部会の設置の必要性を議論し、設置の目的、役割、メンバーの選定方法などを決定する。	設置の必要性は高いと認められ、設置の目的、役割、メンバーの選定方法などが決定された。
2. 作業部会のメンバー	作業部会のメンバーの選定方法、メンバーの役割、メンバーの選定基準などを決定する。	メンバーの選定方法は、関係者からの推薦、公募、指名などによる。メンバーの役割は、調査、分析、報告などである。メンバーの選定基準は、専門性、経験、コミュニケーション能力などである。
3. 作業部会の活動	作業部会の活動の目的、活動の計画、活動の進捗管理などを決定する。	活動の目的は、課題の解決、情報の収集、関係者の連携などである。活動の計画は、活動の目的、活動の計画、活動の進捗管理などである。活動の進捗管理は、定期的な報告、進捗の把握などである。
4. 作業部会の報告	作業部会の報告の目的、報告の計画、報告の進捗管理などを決定する。	報告の目的は、課題の解決、情報の収集、関係者の連携などである。報告の計画は、報告の目的、報告の計画、報告の進捗管理などである。報告の進捗管理は、定期的な報告、進捗の把握などである。
5. 作業部会の評価	作業部会の評価の目的、評価の計画、評価の進捗管理などを決定する。	評価の目的は、課題の解決、情報の収集、関係者の連携などである。評価の計画は、評価の目的、評価の計画、評価の進捗管理などである。評価の進捗管理は、定期的な評価、進捗の把握などである。

【2班】

主な論点	検討項目（素案）	付箋に記載の意見
●日常生活（医療・福祉・買い物等）の基盤の確保	地域医療	・チェーン店を作ったら盛り上がる!? ・県の補助を厚くすればいい ・高齢化福祉の充実/健康寿命の延伸
	買い物	・コープが高い
●くらしの安全（防災・防犯等）の確保	防災	—
	防犯	—
●公共交通機関等の交通利便性、持続可能なモビリティの確保	地域交通	・道路の整備が不十分 サイクリングとか..不安
●住環境の質の確保（豊かな自然環境との調和、多様な世代への配慮等）	豊かな自然環境との調和	・企業誘致課 住民の声を聞かない ・夜の灯りの数が少ない
	多様な世代への配慮	・見守りや支え合いの仕組みづくり
●働く場・環境の確保	働く場	—
	働く環境	・オンライン環境の整備を進めては？ 5G ・ネットワークを選択できない
●多様な人がつながるコミュニティの形成	環境整備	—
●質の高い教育環境の確保	教育環境の確保	—
●学生・研究者にとって魅力あるまちづくり	魅力あるまちづくり	—
●研究機関×大学×企業×地域による新たな学び・交流の創出	学び・交流の創出	・知識や経験の継承 ・生涯学習や文化活動
●住民・学生・研究者等多様な人が交流する機会・場（空間）の創出	機会、場（空間）の創出	・地域活動への参加 ・ボランティア活動 ・世代間交流
●都市ブランドや魅力の創出・発信、シビックプライドの醸成	都市ブランドや魅力の創出・発信	—
	シビックプライドの醸成	—
●既存施設、未利用地、遊休施設等の有効活用	資産の有効活用	—

●若者等の定住・雇用環境の整備	環境整備	—
●自然、都市の魅力を活かしたまちの魅力づくり、イベントの展開	魅力づくり、イベント展開	—
まちの方向性	・研究者、技術者、教育関係者、企業経験者など、多様な経験を持つ人々の人的資源をどのように地域の活力へ結び付けていくかが将来の重要なテーマになり得る ・光都で文化を拓く	
●その他の意見		
・企業庁にまじめに対応して欲しい ・方向性が定められていない 「キーとなるものがない」 ・外よりも魅力的な光都とは？ ・なんで光都がこうなったのか知りたい ・色々な人が住んでいる ・道が汚い。電灯が暗い ・高齢化対策に留まらず、「どのような高齢化社会を実現したいのか」を地域の将来像を考える上での重要な議題にすべき		

<特記事項・コメント>

- ・まちなかに街灯が少なく、夜の帰り道などは暗くて不安を感じる。街灯を増やすことで、安心して夜道を歩けるようになるだけでなく、まち全体の印象も明るくなるのではないかな。
- ・路面の舗装状況が悪く歩行・自転車通行が困難である。舗装状況を改善することで、自転車利用者が通行しやすくなり、サイクリングを目的とした来街者の増加にもつながるのではないかな。
- ・まちなかで自由に利用できるネットワーク環境を整備することで、市民や来訪者の利便性が高まり、交流や滞在の促進につながるのではないかな。
- ・大型ショッピングセンターやチェーン店を誘致してはどうか。学生が働ける場所をつくることで、アルバイト先の選択肢が増え、学生がまちなかに滞在する機会も増えるのではないかな。企業誘致については、県からの補助を厚くするなどに対応できるといい。
- ・検討の進め方についての方向性が定まっていないため、まずは鍵となる視点やテーマを明確にすることから始めてはどうか。また、光都が現在のような状況（人口が増えないなど）になった背景や理由を知ることで、過去の経緯から学び、今後のまちづくりの方向性を考える手がかりになるのではないかな。
- ・県から購入した住宅が地盤沈下の影響で傾いた際に行政へ問い合わせたが、適切な対応を受けることができず、県への信頼を損った。県は、住民からの相談や問い合わせに対して、責任を持って丁寧に対応すべきではないかな。
- ・まちの全体像を考える上で、高齢化社会を課題としてだけでなく強みとして捉え、高齢者と地域が互いに支え合う、互助的な地域のあり方を目指すことが望ましいのではないかな。

【3班】

主な論点	検討項目（素案）	付箋に記載の意見
●日常生活（医療・福祉・買い物等）の基盤の確保	地域医療	—
	買い物	・ 互助の仕組みづくり ・ コープこうべのアプリ おたすけタッチ
●くらしの安全（防災・防犯等）の確保	防災	—
	防犯	—
●公共交通機関等の交通利便性、持続可能なモビリティの確保	地域交通	・ 各施設からまちへ出る手段 LUUP など
●住環境の質の確保（豊かな自然環境との調和、多様な世代への配慮等）	豊かな自然環境との調和	—
	多様な世代への配慮	—
●働く場・環境の確保	働く場	・ ドローン特区（企業誘致） ・ 目視外でできるようになれば企業くるかも？
	働く環境	
●多様な人がつながるコミュニティの形成	環境整備	・ 街の美化を強力に推進 「公園都市」
●質の高い教育環境の確保	教育環境の確保	・ 新宮小中一貫校になじめない児童の受け入れ
●学生・研究者にとって魅力あるまちづくり	魅力あるまちづくり	・ 学生が気軽に利用できるカフェ（サードプレイス）
●研究機関×大学×企業×地域による新たな学び・交流の創出	学び・交流の創出	—
●住民・学生・研究者等多様な人が交流する機会・場（空間）の創出	機会、場（空間）の創出	—
●都市ブランドや魅力の創出・発信、シビックプライドの醸成	都市ブランドや魅力の創出・発信	—
	シビックプライドの醸成	—
●既存施設、未利用地、遊休施設等の有効活用	資産の有効活用	・ 5期住宅の販売開始
●若者等の定住・雇用環境の整備	環境整備	—

●自然、都市の魅力を活かしたまちの魅力づくり、イベントの展開	魅力づくり、イベント展開	・てくてくマーケットの活用
まちの方向性	・テクノの税収を街の発展に投資できる仕組み ・事業収入から街の発展に投資できる仕組み ・先端技術を吸収発展させる術 ・ダイセルは木からプラスチック、木からジェット燃料をつくる企業 - メガソーラーの電気、水→水素で走るバスとか　そういったことを住民の方から呼び掛けて来てもらうとか？ ・安全安心（全体的なキーワード）	
●その他の意見		
・どう整理されるのか、イノベーションの話もない。全体として～なりますというイメージが欲しい。情報共有のしくみとか ・このまちに議員がいない　行政意見がたくさんある。→市町に意見が反映されない　→予算がつかない		

<特記事項・コメント>

- ・議論の前提として、スピード感や予算規模をある程度明らかにしてもらわなければ、現実的な話がしにくい。どの程度の規模で考えればよいのか、どこまでが実現可能なのかが分からないままでは、具体的な検討ができない。
- ・買い物について、コープこうべのアプリの仕組みを参考に、住民同士で日常の困りごとを支え合う互助の仕組みづくりができないかとの意見があった。
- ・交通について、企業・大学・サッカー場など一定の人が集まる施設はあるが、それらの利用者が地域内を回遊することは少ないため、LUUP など地域内の移動をしやすくする仕組みが必要ではないか。
- ・先端技術の活用について、テクノは電線が少ないためドローン特区にしてはどうか。そのような先端技術を発展させるまちとして打ち出すことで企業誘致につながるのではないかと意見があった。
- ・企業誘致については、「こういう技術を持った企業に来てほしい」と地域側から企業に呼び掛けるような動きができると良い。例えば(株)ダイセルのように木からプラスチックやジェット燃料をつくる技術を持つ企業もいる。また、メガソーラーの電気や余剰水などの地域資源をうまく活用して水素をつくり、水素で走るバスを製造することも考えられる。そのような播磨“科学”公園都市らしい取組ができると良いのではないかと意見があった。
- ・まちづくり全体のキーワードとして「安心・安全」が挙げられ、医療、防災、交通、日常生活の支え合いなどを含めて、子どもから大人まで誰もが安心して暮らし続けられる環境づくりが重要ではないかと意見があった。
- ・播磨科学”公園都市”という名称のとおり、まち全体を公園のように捉え、住民も主体的に美化に協力し、観光できるような美しいまちにしていけるのが良いのではないかと。まちの景観や環境を住民自身も育てていく意識が重要と考えている。

■コーディネーターからのコメント

- ・辛口の意見は、「悪いところ」という表現になるかもしれないが、そこも含めて大事である。躊躇わず、挙げていただきたい。
- ・前回から今回にかけて、かなり解像度が上がってきたと言える。前は少し大きな視点で話合った。地域の代表としての立場感のある意見もあったと思う。今回は、皆さん自身の我が事としてのコメントや、そこから出てきた課題を指摘していただけたのではないかなと思う。やはり回を重ねる意味があると感じている。
- ・まちづくりチームで検討が難しい論点については、他のチーム（例えば、都市フレームチーム）に渡すこともできる。課題の先についても意見が出たことは良いことである。積み重ねによって地域のことを地域で考えるという方向へ発展しているように感じている。

■コーディネーターからのコメント

- ・ふわっとした議論について、少しずつ解像度を高めながら話ができるようになってきている。議論の下地がつくられているのではないかと手応えを感じた。
- ・なぜこの都市がこうなっているのか、これからの事業の予算規模をどうするのか、あるいは地域医療や防災について具体的にどう運営したらよいのかなど、専門家に投げかけるべきポイントが見えてきたことは非常に重要である。ぜひ都市フレームチームやイノベーションチームに投げかけて、皆で勉強して共有していきたい。
- ・まちのことを考えていくうえでは、住民自身も努力する一方で、行政も県や周辺市町と連携し、一体となって取り組んでいくことが重要である。また、その際の相談窓口や支援の入り口を明確にしていく必要性が見えてきた点も、大事なポイントであると思う。

【当日の様子】

